今月の江戸しぐさ「意気合いしぐさ」

「意気合いしぐさ」は意気を合わせるしぐさです。
すでに個人主義が善とされていた欧米の人達にとって、集団の為に個人が犠牲になる観念の強い民族が、それにもかかわらず陽気に声を合わせ、幸せそうに力を合わせている姿は深い感銘を与えていました。
人の個々の力は小さいですが、集団で無心（無私）に意気を会わせて一つの事を成すことの大切さ、充実感を述べています。
ありがちな話に「どうせ僕は組織の歯車の一つだから」というのがあります。　人は社会的な動物ですから歯車の一つが当たり前で、首相や大企業の社長も歯車の一つでしかありません。　大切なのはどのような歯車かということです。
病院はいろいろな職種の集まりで、個々の職場が力をだしあって組織をささえています。
個々の職場で一人一人それぞれの守備範囲を、意気を合わせて仕事をする感覚があると良い職場になり、それは患者に反映されます。
「意気合いしぐさ」をおまじないにすると、職場で連帯感、信頼感、充実感を感じるようになるかもしれません。　　どうぞご活用を。

花市場

※江戸思草は、江戸時代の町民が良いとされること、悪いとされることなどの生活の規範としていたものです。
6歳までに習得すべき事とされていました。
判断の基準は粋かどうかだったようです。
他の国にない、一般庶民の高度な精神性が、当時日本に来た外国人に驚きをあたえていたことが多数記録されています。

ロバート フレデリック ブラム
Robert Frederick Blum
(1857～1903)
日本をこよなく愛したアメリカ人画家。
江戸の風情が強く残っていた明治中期に約2年半訪れ、当時の息づかいさえ感じる作品を残してくれました。